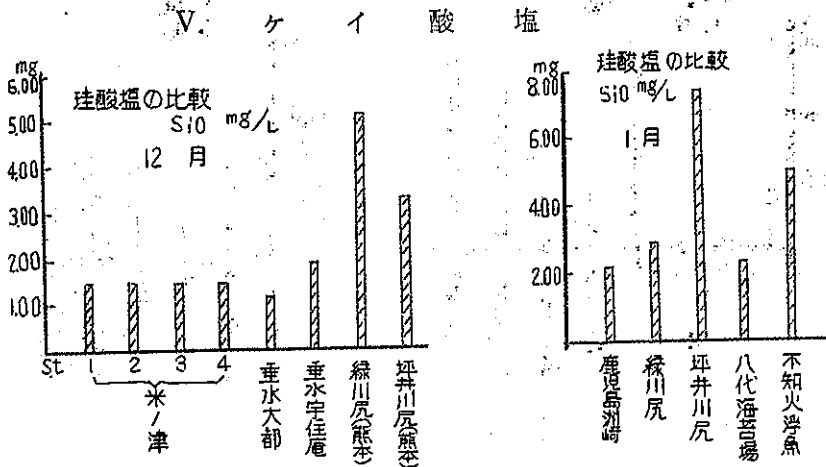


っているが0.01mg/L内外で大同小異である。

垂水大都是米ノ津St4に等しく、宇住庵は米ノ津St3に等しい何れも有明海の1/2~1/3となつている。鹿児島洲崎（1月）は0.0172mg/Lで米ノ津（12月）垂水（12月）に比べてやゝ多く熊本有明海八代海、福岡豊前地先よりも上回つている。



米ノ津（12月）では各地点共に1.5mg/L。垂水（12月）でも1.5mg/L内外を示し熊本緑川尻に比べ約1/3となつている。

鹿児島洲崎（1月）は米ノ津、垂水（12月）よりやゝ多く八代海（熊本）とは略等しいが、坪井川尻に比べると1/2.5と少なくなつている。

結 論

いくつかの必要栄養塩類のうち、ある1種のものでも生産量を左右する量以下であるとその量で全体の生産量を左右することになる（肥料要素最小養分率の法則）従つて以上のように本県ノリ場の必要栄養塩類は有明海等に比べて少ない値となつており更に養殖期間中の高水温はノリの生育並びに品質に悪い影響を大きく与えている。

このような環境要因による低位生産性の克服手段として施肥の問題はもちろん、品種の問題、更には製品貯蔵による販売経営の問題など考慮してノリ養殖業の合理化を計ることが必要と思われるが、そのいずれもが現在のところまだ技術的に確立された方法がないか、又あつても直ちに実行の困難な要素を多く含んでいるので、関係者の今後の努力に待つところかきわめて大きい。

黒蝶貝半円真珠養殖試験

1. 試験の目的

黒蝶貝は外海性のものであるがこれを外海に養殖した場合台風の被害が大きいので被害の少ない鹿児島湾内で良質の黒蝶半円真珠が出来るか否かの試験をした。

2. 方 法

(イ) 採 取

8月15日より8月31日まで熊毛郡西之表町並全郡南種子町において裸潜りが採取したものである(水深10米~20米)

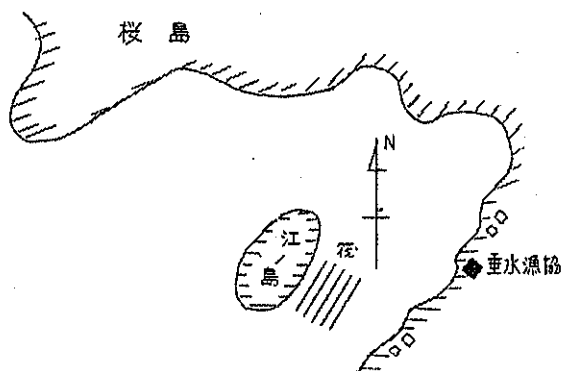
(ロ) 運 搬

上記のとおり採取したものを8月23日及8月31日の両回養殖籠(高さ12纏、縦横45纏)に30貝を入れて甲板積みとして途中3回の撒水を行い夜航海にて養殖場所(垂水町海瀉)に運搬した。(所要時間10時間)この外に肝付郡佐多町大泊産47個を購入した。

(ハ) 養 殖 場 所

水深~7米~8米

下図のとおり垂水町海瀉江ノ島東岸に位置しているの南が広く開いている以外は陸に近いので波浪の危険度は少く潮どおしも良好である。



3. 筏 及 垂 下

長さ10米の孟宗竹の先端を両方より合せて針金にて3ヶ所結着1連を15mとして5連を江ノ島を隔る10米の地点より東へ浮設し4方より木製の錨にて固定しなお補強として中央に1本宛の錨を張った。この筏に1籠10個入として1連に7籠を水面下3米に吊した。

4. 期 間

8月25日~12月17日 (115日間)

5. 経 過 及 結 果

(イ) 核 入

才1回8月24日~8月29日

使用母貝 226個

使 用 核		オ2回9日11日～9月15日	
サイズ	数量	母貝304個の中斃死55個	
12mm	125	使用母貝	249個
13〃	91	使 用 核	
14〃	71	サイズ	数量
15〃	94	12mm	136個
16〃	42	13〃	93〃
17〃	7	14〃	46〃
18〃	5	15〃	72〃
計	435	16〃	22〃
		17〃	4〃
		18〃	7〃
		計	380個

(ロ) 核入れ後の経過

貝掃除 10月11日～12日及11月12日～13日

(ハ) 取揚げ 12月17日

取揚げ 447個

養殖中斃死 28個

(ニ) 優良玉として打抜いたもの

サイズ	数量
12mm～13mm	306個
14mm～15mm	97個
16mm以上	17〃
計	420〃

(ホ) 販 売

入札にて一括 100,000円

6. 考 察

(イ) オ2回核入(9月11日～15日)当時は足糸の脱落期で貝の移動期と考えられこの時間は貝が衰弱してこるように見受けられたのでそれ以前に核入れを実施すべきである。

(ロ) 黒蝶貝は外海性のもので内湾では養殖し難いと考えられ勝ちであつたが内湾でも外海漁場と変らない真珠が生産されることが明かとなつた

(ハ) 販売の結果から見て12mm～13mm等の小玉は価格が低下の傾向にあるので14mm以上の大玉を12cm以上の大貝に核入れすることを心掛くべきであろう。